



山形一中だより 第146号

令和7年11月13日  
発行 山形市立第一中学校

## 平和への祈り～被爆ピアノ平和コンサート

10月27日(月)、本校体育館において「被爆ピアノコンサート」が行われました。本校で開催されるのは2年連続4回目となりました。シンガーソングライターの南壽あさ子さんがオリジナルやカバー曲を披露してくださいり、全校で平和を願うひとときとなりました。

～生徒の感想より～



調律師 矢川光則さん

被爆ピアノの音色は80年前の惨劇を乗り越えただけあって、きれいで力強い、美しい音色だった。あちこち傷だらけだったけれど、その傷の数だけあちこちで「もうこんなことが起きてほしくない」という平和を願う想いを届けて伝えてきたのだなと思った。そしてピアノが壊れて動かなくなるまで、命尽きるまで歌って、美しい音色を響かせてその想いを伝えほしいと思う。そしてその想いを去年も今年も伝えられた自分たちは平和な世界をつくっていかなければいけないと思った。いつまでも平和な世界を願って生きていきたいと思う。(3年)

被爆ピアノの演奏を聞いて、とても力強くきれいな音色だなと思った。被爆ピアノを見たり聞いたりしたのは初めてだったけれど、ピアノのいろんなところに傷がついていたことから、このピアノは戦争のつらさや苦しさの象徴のようだなと思った。このピアノが平和の種を植えるために、全国や世界の国々を回っていると聞いて、それをきっかけに、たくさんの地域に平和の大切さが伝わるといいなと思った。実際に戦争を経験した人が減少していく中、この被爆ピアノのように、未来へ長い期間、平和の大切さを伝えることができるものを受け継いで保存していくことが大事だと今日の演奏を聞いて感じたので、これからもこういう機会を大切にしていきたいと思った。(2年)



シンガーソングライター  
南壽あさ子さん



当時のことを明確に覚えている人が年々少なくなってきた今に、当時の物を通して80年前に想いを寄せることができるのはとても貴重なことだと感じています。人ではなく物が、それも長く親しんできたピアノが語るのは芸術的で、海外での演奏もされていると聞き、驚きました。私たちだけでは済まさず、世界中を巻き込んだ平和が実現できるよう、私も、私ができる平和に一歩踏み出そうと思います。被爆ピアノは少しオルガンのようで、昔ながらのピアノの音を直に聞くことができ、うれしかったです。(1年)